

令和5年度 学力向上推進計画

南城市立玉城小学校

1 目標

授業改善と学習基盤の確立により、児童一人一人に学び・育ちの実感を味わわせ、自己肯定感を高めるとともに、国及び県の学力調査において、国語・算数で県平均・全国平均の正答率を目指す。

2 推進目標

- (1) 全国学力・学習状況調査、県到達度調査、学びのたしかめにおいて、全国平均正答率を超えることを目指す。
- (2) 自己肯定感のアンケートやQ-Uアンケートで全国平均を目指す。
- (3) 全国学力・学習状況調査及び県学力到達度調査、学びのたしかめにおいて、平均と比較で落ち込みのある項目の改善を図る。

3 取組の重点

「沖縄県学力向上推進5ヶ年プラン・プロジェクトⅡ」に基づく授業改善・学校改善の推進

(1) 自己肯定感の高まり

- ①児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する取り組み。
- ②人間形成の形成と居場所づくり

(2) 学び・育ちの実感

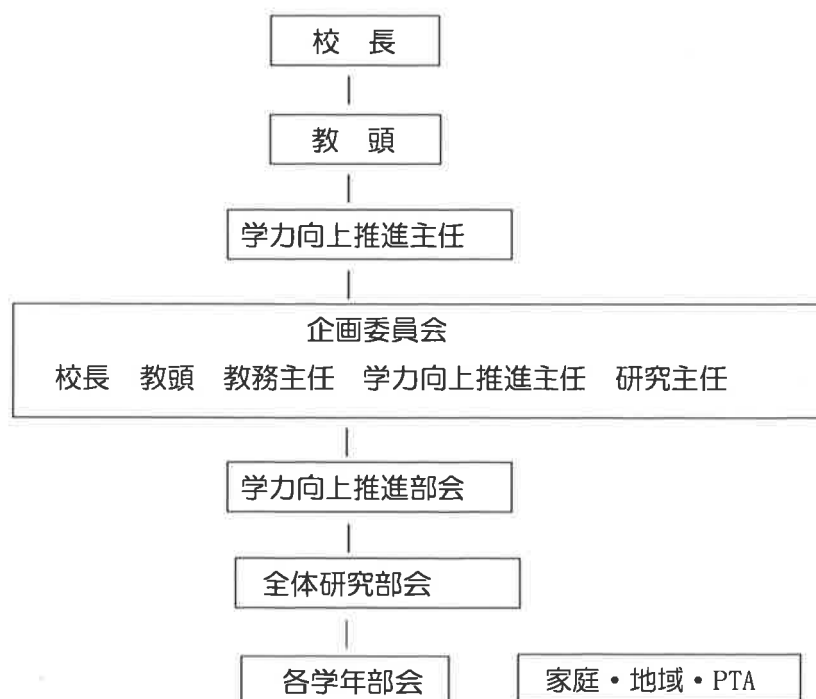
- ①学習を支える基盤として「玉小ルール」等の学習規律を徹底させる。
- ②強化授業を中心に漢字力・計算力を高める指導に取り組み、学習の基盤作りをする。
- ③保護者・地域の人材を活用したり取り組みを推進し、目的意識の高揚と学習意欲の向上を図る。

(3) 学力向上マゼットによる「目標管理型評価システム」の推進

- ①市の学力向上推進プロジェクトに連鎖した学校の取組目標を自己申告書や学年学級経営案に反映させることで、全職員が連携した取組を推進する。

4 推進体制

(1) 組織



(2) 各種委員会・部会等の取組

①企画委員会

- ・校長、教頭、学推（正・副）主任で組織する。
- ・学力向上と校内研推進の企画、立案する。
- ・取組の結果を分析、考察し、成果や課題等を整理し、取組のまとめをする。
- ・各学年の指導の効果をまとめ「学年のたすき」として、次学年に引き継ぎ、継続した取組が展開できるようにする。

②学力向上推進部会 学推主任 学推副主任 研究主任

- ・校長、教頭、教務、研究主任、学年主任で組織する。
- ・実践のマネージメントサイクルに基づく取組を推進する。
- ・企画委員会で企画、立案した内容を検討する。
- ・学力向上推進の運営、調整を行う。

③学推全体会

- ・全職員で学力向上の取組について共通理解する。

④学年部会

- ・各学年単位での学力向上における日常的な取組を実践する。
- ・各教科の年間指導計画を活用し、基礎・基本の定着を目指す。
- ・取組の重点を踏まえ、学年・学級経営を行う。

⑤家庭・地域・PTA

- ・家庭学習の習慣化を図る。
- ・読書活動の推進を連携して行う。
- ・補習等でミントウンの会による〇付けボランティアの協力を得る。
- ・校外指導活動で児童の安全を見守る。
- ・児童の安全確保のために、登下校時の児童を見守る。

5 具体的な取組内容

(1) 自己肯定感を高める取り組み

① 児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(誉める)取り組みで自己肯定感アップ

- ・教師ができていない箇所を指摘⇒教師が良さを見つけ誉めて伸ばす
- ・教師ができていない児童を指摘⇒教師ができている児童を賞賛
- ・児童同士が注意し合う⇒児童同士が認め合う
- ・自分の短所、改善点を見つめ改善する⇒自分の長所、自慢できることに気づきの伸ばす
- ・途中であきらめた、やらなかった、できなかった経験⇒最後までやり遂げた、頑張った達成経験

② 人間関係の形成と居場所づくりで自己肯定感と自己有用感のアップ

- ・ペア学習グループ学習等で互いに学び合い認め合い、人間関係の形成と自己肯定感を高める。
- ・掃除当番、給食当番、係り活動、お手伝いを通してみんなのために役立つ、感謝される、褒められる経験を通して自己有用感と自己肯定感を高める。

③ Q-U アンケートの結果共有

5月と10月に実施するQ-Uアンケートの結果をもとに気になる児童の把握と全職員による情報共有で自己肯定感を高める手立て支援を講じる。

(2) 学び・育ちの実感の取り組み

① 教室環境を整える(刺激への配慮)

- ・集中し落ち着いて学習に取り組める環境を整えるために、教室の刺激の量を減らす配慮を行う。
- ・黒板及びその周辺の掲示物を必要最小限にする。

統一事項 ○黒板上部：何も貼らない

○黒板「日付、めあて、日直」のみ *その他のものは黒板に貼らない

②「玉小ルール」で学習規律の徹底

- ・全学級に掲示し、児童に学習規律を徹底させ、どの授業でも学習を支える基盤作りをする。
- ・4月の1ヶ月で徹底を図り、日々の学校生活でも常に意識して取り組ませる。

③諸学力調査問題の課題点の重点指導

- ・全国学力学習状況調査、学びのたしかめ、県到達度調査問題で課題のあった指導項目を年度始めに確認し授業の中で重点的に指導したり、掘り下げて指導したりして定着を図る。

④ 漢字力の定着及びテストの実施

- ・漢字力テスト・・・学期末漢字テストをを活用し、85点以上を目指す。(間違えた問題は追試)
- *1回目は解答は配らず実施、2回目から配布

⑤ 計算力の定着及びテストの実施

- ・計算力テスト・・・学期末まとめのテストを活用し、85点以上を目指す。(間違えた問題は追試)
- *表のみ集計に入れる。

⑥ 放課後の補習全児童を対象に補習指導を行う。

- ・国語、算数で落ち込みのある内容を指導し、ミントウンの会による丸付けボランティアの協力を得る。
- ・県学びのたしかめや到達度調査への対応としても活用する。

⑦「玉小ルールアンケート」の実施

- ・玉小ルールと自己肯定感の質問項目で年に3回(各学期)、学校生活について児童の自己評価アンケートを実施する。
 - ・自分の学習を支える力の基盤ができているか再確認させたり、自己肯定感を高める取り組みの成果を確認したりするのに役立てる。 1学期(4/26)、2学期(11/1)、 3学期(1/31)
- *集計クロムブック(集計結果を各学級で活用する)

⑧ 生活リズムアンケートの実施

- ・生活リズム習慣「朝ご飯を食べた、テレビの視聴時間、就寝時刻、家庭での読書時間、家庭学習の時間(学年×10+10)」について家庭と連携して1週間、アンケートを取り、児童の生活実態を把握して指導に生かす。 1学期(5/8~5/12)、2学期(9/4~9/8) 年2回 *担任回収

⑨「家庭学習スケジュール表」実施

- ・学年で統一した用紙を用いて、各自の1週間の家庭学習スケジュール表を作成する。
 - ・がんばりノートや宿題ファイルに綴るなどして、1週間意識して取り組めるようにする。
- *2学期(9月)実施

6 実践のマネージメントサイクル

	月	本校の実践
計画	4月	○学力定着・学習規律強化月間の実施 ○「玉小ルール」の確認 *学推朝会 ○「学力向上対策推進計画」の共通理解 ○年度始めの支持的風土をつくる学級経営を中核とした取組 ○玉小ルールアンケート1回目（集計4月7日にて）4/27(水) ○各学期、計算力テスト・漢字力テストの取り組み確認。 ○全国学力・学習状況調査に向けた6年の補習の取組 ○全国学力・学習状況調査実施（WEB入力）
実践	5月	○生活リズム実態調査① 5月実施 回収担任 ○Q-Uアンケート（1回目）
評価	6月	○「県学びのたしかめ」実施（WEB入力）
	7月	○1学期漢字力テスト ○1学期計算力テスト ○全国学力・学習状況調査の結果分析。
改善	8月	○学力定着月間に向けてプリント印刷作業
実践	9月	○「玉小ルール」の確認 *学推朝会2回目 ○家庭学習スケジュール表」実施 ○県学力向上月間の取組の共通確認
	10月	○Q-Uアンケート実施（2回目）
評価	11月	○玉小ルールアンケート2回目（集計4月7日にて） ○生活リズム実態調査② 9月実施 回収担任 ○「県学びのたしかめ」の実施（WEB入力）
	12月	○2学期漢字力テスト ○2学期計算力テスト
改善	1月	○地区学力向上推進報告書の作成（データのみ） ○学力向上推進報告会 授業参観日
	2月	○玉小ルールアンケート 3回目 ○県学力到達度調査対象；3～6年(前年度5・6年 国・算) ○3学期漢字力テスト ○3学期計算力テスト
計画	3月	○全国学力学習状況調査に向けての取組（5年） ○次年度計画策定



玉城カルール



登校中

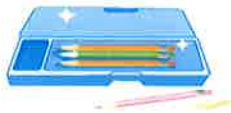
あいさつ

立ち止まって
相手を見て
明るい声で



登校後

ふでばこ



- ①2B・Bのえんぴつ(5本)
- ②赤青えんぴつ ③定規
- ④ネームペン ⑤消しゴム

机の中



右・・・本・ノート・下じき
(時間割順)

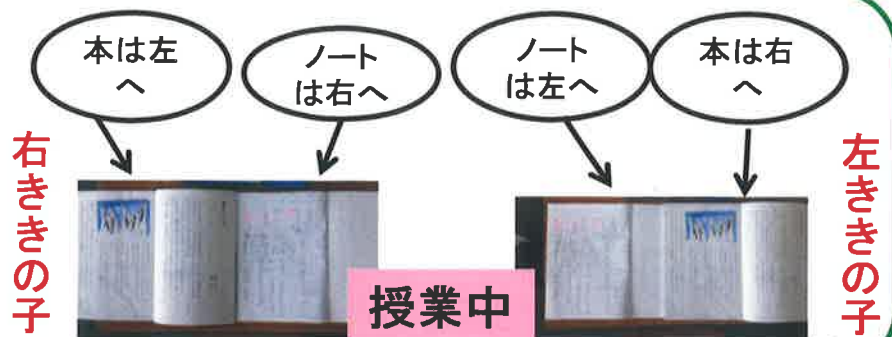
左・・・のり・✂・クーピー
定規セット(整理整とん)

授業前

机の上



授業前



時間に合わせて 1分前着席 黙想



授業中

座り方

- ①足裏をつける
- ②背筋を伸ばす
- ③お腹と背中は一握1つ



席を立つ

イスを机の下へ

挙 手

手をのばし「はい」は1回
しずかに手を挙げる

返 事

「はい」「いいえ」が言える

聞き上手

相手を見て
考えながら
最後まで聞く

話し上手



相手を意識して
伝えたいことを
聞こえるように話す

発 表

- ①基本話型を使って発表する
- ②主語・述語を考え「です」
「ます」をつけてはっきり言う。

ノートの使い方

- ①月日を書く ②定規を使う
- ③めあて・まとめ→赤 考え→青



安全安心

ぬち たから
「命どう宝」横断歩道を渡ります
「いかのおすし」を守ります

2 1 学力向上対策推進計画

学力向上推進計画の全体構想図

《 沖縄県学力向上推進5ヵ年プラン・プロジェクトⅡ 》 令和2年度～令和6年度

【目標】

幼児児童生徒一人一人に「生きる力」の基礎となる「新しい時代をつくるために必要とされる資質・能力」を育む。

【取組の重点】 学びの質を高める「授業改善」

- (1) 自己肯定感の高まり
- (2) 学び・育ちの実感
- (3) 組織的な関わり

《 島尻教育事務所 島尻教育推進の基本方針（令和2年度） 》

【目標】

自ら学ぶ意欲をもち、心豊かでたくましい幼児児童生徒の育成

【豊かな教育活動の展開】

○確かな学力の向上

- 1 「沖縄県学力向上推進5ヵ年プラン・プロジェクトⅡ」に基づく授業改善の推進
- 2 学力向上マネジメントの推進

○豊かな心の育成

○健やかな体の育成

《南城市 学力向上推進 》

【重点目標】

幼児児童生徒一人一人の「確かな学力」を向上させ、「生きる力」の育成。

【取組の重点】

柱1；キャリア教育の視点を踏まえた「確かな学力」の向上の推進

- 地域教育資源や本物にふれる活動を通して学ぶ意義や働く意義を実感させる。
- 職場見学を教科の内容と繋ぐことで取組の充実を図る。
- 目的意識を高める事前指導と事後指導を工夫する。

柱2；「授業改善」に重点をおいた「確かな学力」の向上の推進

- 幼小中が連携し、系統的・継続的な授業改善の推進
- 「授業改善6つの方策」の共通実践

《玉城小学校 学力向上推進 》

【目標】

授業改善と学習基盤の確立により、児童一人一人に学び・育ちの実感を味わわせ自己肯定感を高めるとともに、国及び県の学力調査において、国語・算数で県平均、全国平均の正答率を目指す。

【推進目標】

- (1) 全国学力学習状況調査、県到達度調査、学びのたしかめにおいて、全国平均・県平均正答率を越すことを目指す。
- (2) 自己肯定感のアンケートやQ-Uアンケートで全国平均を目指す。
- (3) 全国学力学習状況調査及び県学力到達度調査・学びのたしかめにおいて昨年度との比較で落ち込みのある項目の改善を図る。

家庭学習の手引き(1～6年)

南城市立玉城小学校

小学校の学習は、社会人として将来自立するための基礎となるものです。とくに「読む」「書く」「計算する」などは、欠かすことのできない「生きるための力」です。よりよい家庭学習の習慣化に向けて、この手引きをよく目にする場所に貼っていただき、お子様の学力向上にお役立てください。

1 家庭での学習を習慣化しよう

◆学習時間のめやす

1学年・・・20分以上、 2学年・・・30分以上
3・4学年・・・45分以上、 5・6学年・・・60分以上

※ 学力アップは規則正しい生活から

- 早起き(6時30分までに起きる) ○朝食は必ず食べる
- 朝の排便 ○家に帰ったら、早めに家庭学習を済ませる。
- 自分で時間割や学習用具をそろえる。
- テレビやゲームは、1日1時間以内に！ ○早寝(9時30分までに寝る)

※ 学習の大切なポイント

- ・勉強する時は、テレビを消す。 ・よい姿勢で学習する。
- ・机の上を、きれいに片付ける

2 家庭学習の参考例(各学年共通)

◆学習内容

- 国語**・漢字練習・意味調べ・写本
・読書・音読・日記など
- 算数**・計算練習・百ます計算・文章問題・復習
・テストで間違えた問題をもう一度ノートに写して
といてみる
- 社会、理科、生活科など**
・勉強した所に関係がある事から本や辞典などで
調べてまとめる
- ☆プリントやドリル・問題集の宿題がない場合は、自
主学習などに進んで取り組みましょう。
- ☆自主学習は復習を中心に行いましょう。

3 生活の中で心がけたいこと

◆生活の中から学ぶ

- 読書は「見えない学力」を高め、豊かな心を育み、想
像力が養われますので、進んで本を読もう。
- 国語辞典や漢字辞典、その他の辞典類を身近に置いて
調べよう。
- 百人一首や詩歌の暗唱をしよう。
- 日本地図や世界地図も身近なところに置いて調べよう。
- ニュース番組を親子で見えて話し合い、新聞を読もう。
- いろいろな本を読み、書いてあることを読み取ろう。
- 自然や生き物とふれあい、くわしく観察してみよう。
- できるだけ外遊びや運動をして、体力を高めよう。
- 家の手伝いを、めんどくがらずに進んでやろう。

4 各学年の学習

1年生：習慣づけの1年生

- ① えんぴつを正しくもって字が書ける。
- ② ひらがな、カタカナが読めて書ける。
- ③ 助詞(て、に、を、は)を適切に使い分けて文章が書ける。
- ④ 小さく書く字「っ、よ、ゃ」などに気をつけて文章が書ける。
- ⑤ 80字の配当漢字のすべてが読めて、書ける。
- ⑥ たし算・ひき算ができる。(くり上がり、くり下がり)の計算
- ⑦ 時計が読める(何時、何分)

2年生：学習が定着し始める2年生

- ① 160字の配当漢字のすべてが読め、書ける。
- ② 教科書がすらすら読める。
- ③ 順序よく話をするができる。
- ④ 九九がすらすら言える。(逆からも言える)
- ⑤ 決められた長さの直線を正しく引ける。
- ⑥ 3位数のたしざん・ひきざんができる。
- ⑦ 簡単な分数が分かる(1/2や1/4など)
- ⑧ 体積の単位(ml, dl, l)が分かり測ることができる。
- ⑨ 時間の単位(日・時・分)がわかる。
- ⑩ 正方形・長方形・直角三角形がわかる。

3年生：分岐点の乗り越える3年生

- ① 200字の漢字がすべて読め、漢字が書ける。(漢字の組み立てが分かる)
- ② かん単な単語をローマ字で書ける。
- ③ 国語辞典が正しく使える。
- ④ 筋道を立てて分かりやすく話したり、書いたりすることができる。
- ⑤ 2けたのかけ算の筆算・あまりのあるわり算・かん単な分数のたし算・ひき算)ができる。
- ⑥ コンパスを使って、きれいな円がかける。
- ⑦ 重さの単位(g・kg・t)が生活の中で使える。
- ⑧ 時間や時こく(秒)の計算ができる。
- ⑨ 小数や分数の表し方がわかる。
- ⑩ 千万の位までの数を読んだり、書いたりすることができる。

4年生：「9歳の壁」を破る4年生

- ① 200字の配当漢字のすべてが読め、漢字が書ける。
- ② ローマ字の読み書きができる。
- ③ 国語辞典や漢和辞典を正しく使えて、日常的に活用できる。
- ④ わり算の筆算ができる。
- ⑤ 面積の公式が理解できる。
- ⑥ 文章題の意味が分かり、式を立てることができる。
- ⑦ コンパスや三角定規を使って簡単な図形が書ける。
- ⑧ 地名が調べられ、沖縄県の市町村や47都道府県を覚えられ
る。

5年生：学力をさらに伸ばす5年生

- ① 185字の配当漢字のすべてが読め、漢字が書ける。
- ② 習った漢字を使った熟語の8割程度が書ける。
- ③ 小数のかけ算・わり算ができる
- ④ 分母が違う分数のたし算・ひき算ができる。(通分・約分)
- ⑤ 割合・百分率を使った問題が解ける。
- ⑥ 倍数、約数、最小公倍数、最大公約数を求めることができる。
- ⑦ 日本の地形、47都道府県の特徴、産業の仕組みが分かる。
- ⑧ 植物の発芽、天候の変化、物の溶け方、電流のはたらきな
どが分かる。

6年生：進学に希望をもたせる6年生

- ① 小学校で習得すべき漢字のすべてが読め、書ける。6年生の配当漢字
は181字。(小学校で習う漢字1006字)
- ② 分数のたし算やひき算・かけ算・わり算ができる。
- ③ 様々な文章の内容を捉えながら、読むことができる。
- ④ 歴史上の事件や人物について、だいたい分かる。
- ⑤ 世界の主な国々の位置を、正しく示すことができる。
- ⑥ 理科の基本的な原理や法則が分かり、実験道具の正しい使い方を知る。
- ⑦ パソコンを活用して発表ができる。